

『塗』八供養菩薩

はるばると、遊行の末に辿り着いた修行僧に、身を清め、座を設えて持てなす習慣が有ります。

お四国では、お遍路さんにお接待をし、お風呂や寢床まで用意するご家庭も有るようです。

お持てなしの形が仏具の荘嚴となつて、真言宗の本堂には、真四角の壇に五色の組紐が張られ、四方に六枚の器が並べられ、中央には、お香が焚きしめられています。

その左右三枚ずつの器には、水とお香と座具が象徴的に飾られ、仏さまをお持てなしし、供養の誠を捧げています。

見返りを求めるのは、供養ではありません。その時点までの感謝の気持ちを表したのが、お持てなしのところです。

「してあげた」ではなく、「させていただいた」と思うことが、こころを穏やかに豊かに育てていきます。

皆が尊い命を授かっていますが、その見返りをご先祖さまから求められたことは無いはずです。

身体にも、こころにも、清らかな香りを塗り込めるように、丁寧に丁寧に、自身を磨いて行きましょう。光り輝いた美しい人生を送ることができます。きつと！